

2025年度 北見藤高等学校シラバス

〔教科〕 【科目】	〔数学Ⅲ〕【数学C】	3年	2単位	教科書	最新 数学C（数研出版）	副教材等		履修対象・ 使用教室 等	3年4組選択	
教科 ・ 科目 の 目標	(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。									
評価 の 観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価 方法	＊単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い、〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 ＊単元などの観点別評価に基づいて、学習全体の総括的な評価を行ったものを「5段階の評定」とする。									
評価 資料 ・ 評価 比重 （100点換 算）	評価資料等		予定回数・内容等				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	単元テスト		節ごとに実施予定。				50	50		
	確認テスト		適宜実施。				50	50		
	授業態度		授業時間における話を聞く姿勢や問題演習への取り組み。						50	
	振り返り		毎時間授業後に提出する振り返り。						50	
	〔観点別配分％〕		（3観点の比重を％で示しています）							
月進行 〔計画〕	【単元名】 学習項目名	配当 時間 〔計画〕	学習内容・目標（到達点） など				主な評価資料		評価の重み付け〔○△×〕 知・技 思・判・表 態度	
4 5	第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 第3節 空間のベクトル	22	・ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・位置ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。				単元テスト 確認テスト 授業態度 振り返り	○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○
6	第2章 複素数平面	13	・複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				単元テスト 確認テスト 授業態度 振り返り	○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○
7	第3章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	12	・2次曲線について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				単元テスト 確認テスト 授業態度 振り返り	○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○
8 9 10 11 12 1	入試問題演習	58	入試問題へ対応する応力を養う。				確認テスト 授業態度 	○ 	○ 	 ○
学習の アドバイス	数学Cの基礎基本の定着を目指します。 大学入試など、より高いレベルを目指すものはスタディサプリ等を用いて積極的に学習に励んでください。									